8/10/2011
北村　弘之

三内丸山遺跡と白神山地の旅
--東北鎮魂祭りの地--

今夏は、東北復興を兼ね、まだ足を運んでいない青森県を訪ねることにしました。
メインは、5000 年前の住居跡「三内丸山遺跡」と「弘前ねぷた祭り」そして、世界遺産の「白神山地」３時間のトレッキング。到着した夜は、初日の弘前ねぷたを有料席で観賞。見事な扇型のねぶたと威勢のある掛け声に感動。翌日の「白神山地」では本当に自然そのものの緑一色のブナの森の空気を吸うことができました。そして森の中、汗を存分にかきました。夕食は津軽三味線生演奏を聞きながら郷土料理を堪能。そして、2 日目のねぷたを徒歩で観賞しながらホテルに帰途。　最終日は昔ながらの建物が残る弘前市内の名所を徒歩とタクシーで 2 時間の旅でした。
祭りを通して、東北地方の人情味の厚さと地域の絆を感じた日々でした。

【三内丸山遺跡】

今から約 5500 年前～4000 年前の縄文時代の集落跡で、長期間にわたって定住生活が営まれていたようで、当日のガイドさんの説明では、300 世帯 1500 人ほどの人が生活していたようです。
この北の地でどうして生活できたのかと思ったら、実は現在よりも 2～3 度気温が高かったからとのことです。’93 年から発掘調査が始り、20 年近くたった現在でも調査発掘がされていました。
当日も 4～5 名の人が小さなシャベルで丹念に掘っておられました。中には、発掘当初から作業している人もいました。　また、膨大な量の縄文土器、石器、土偶、土・石の装身具、木器（掘り棒、袋状編み物、編布、漆器など）、骨角器、他の地域から運ばれたヒスイや黒曜石なども出土しています。　ヒョウタン、ゴボウ、マメなどの栽培植物が出土し、DNA 分析によりクリの栽培が明らかになるなど、数多くの発見が縄文文化のイメージを大きく変えた遺跡のようです。写真は、大型堀立柱建物です。

【たんぼアート】

初日の三内丸山遺跡資料館で地元の人と話していたら、珍しい写真があり、これは何ですかの問いに「たんぼアート」という返事にびっくり。とにかく、7 月末から 9 月初め頃が一番見頃ということで、急遽たんぼアートのある「田舎館村」に電車とタクシーで移動することにしました。それは、「田舎館村（いなかだてむら）」というそれこそ田舎という名前の象徴であるがごとき、田んぼとりんごの村でした。　小学校の校庭の広さの田んぼに’93 年からおこなっているもので、年々芸術性が向上しているといわれています。　次頁の写真(今年)のものは、昨年秋にデザインした作品に観賞用の色付イネ 7 種類を使い、春村民たちなどが田植えを行ったものです。　この写真はたんぼのすぐ前に位置した村役場の 6F から見たもので、たんぼの脇では何を描いてあるのかわかりませんが上から見える姿がよいようにデザインされているとのことです。この役場も実は象徴的でビルの上に天守閣がのったお城のような建物なのです。本当に人間のすることは凄いと感じた次第です。今年は「竹取物語」で、右には竹から生まれる瞬間を、左には成

長したあとのようすがわかります。光っている部分も鑑賞イネなのです。但し、食用には適していないということです。

ちなみに、昨年は「弁慶と牛若丸」で、時代風景のものが多いようですが、当初の 10 年はやはり地元の津軽富士岩木山を描いたものが多かったようです。

【弘前　ねぷた祭り】

初めてのねぷた。これは弘前での呼び方で扇型をしたものです。青森では大型の武者灯篭の「ねぶた」と言います。また、五所川原では高さのある「立佞武多（たちねぷた）」。他にいろんな土地でこの時期ねぶた祭りがあることを現地の新聞で初めて知りました。　地元のタクシー運転者の話では、青森ねぶたは、一般の人も参加でき毎日見ても飽きない。　また弘前のものは最終日の駅前通りでの威勢のよい姿、平川のものは世界一の扇型のねぷた。　五所川原のものは高さがあり魅了するとのこと。４日間いればこの醍醐味を味わうことができるとわかったのは残念ながら旅の最終日でした。

さて、「弘前ねぷた」　全部で 82 基が地元から出て、初日はそのうち 45 基。二日目は 38 基でした。桟敷席の近くで醍醐味を満喫できました。

引き手や囃子、太鼓と、幼稚園児から大人までの「ヤーヤドゥー」の掛け声でとにかく元気を通り越して威勢がよい。とりわけ今年は東日本大震災の鎮魂とも重なり、「復興」の文字がねぷたに多かったようです。

本当に、太鼓の音が弘前の街中に響き、街全体が地響きにあっているような感じでした。

各町や各企業でねぷたを作り、それを引きまわす、地元が子どもから大人までひとつになれている実感がありました。やはり、祭りは人を強くし、そして人と人との絆を強くしていると感じた次第でした。

そして、東北人の粘り強さの原点を見た感じでした。

ちなみに、青森ねぶたの掛け声は「ラッセラー」で黒石のねぷたは「ヤーレヤーレヤー」とのこと。青森の中で地方によって形もかわれば掛け声も違う。　大変興味がわく「ねぷた」でした。[上の写真は表側で武将を描く、その下は裏側で妖艶な絵]

【白神山地は緑一色】

‘93 年に日本で初めて世界自然遺産に登録された白神山地は、世界最大級のブナの天然林が広がり、青森県南西部と秋田県北西部にかけて、約 13 万 ha にわたる美しい山々の総称のようです。何といっても、白神山地の特徴は、人間の影響をほとんど受けていない約 8000 年も前から伝わるブナの天然林が、広域にわたり残されていること。そして高緯度にもかかわらず多種多様な動植物が生息し、極めて価値の高い自然の生態系がありのままの姿で保たれていることです。　今回、弘前からバス(約 1h)で一路アクアグリーンビレッジ「ANMON」に入り、そこから標高 390m の「暗門(あんもん)の滝」を目指して歩き出しました。　本来なら往復２時間のコースが崖くずれのため迂回ルートに変更され、３時間のトレッキングになりました。驚いたことに鳥の鳴き声はなく、森全体が静寂に包まれていました。　滝の名称は下のほうから第三の滝、第二の滝、第一の滝というようになっているので、地元の人に聞いてみたところ、昔のマタギが山の頂のほうから探し当てたもので、頂に近い滝が第一となっているようです。

世界遺産に登録されてから 20 年ほど経つのに､現地に来ている人は少なく観光地化されていないのは魅力のひとつです。また、トレッキングしていても雄大な開けた景色は少なく、本当に山が好きという人のためのものという感じを受けました。

暗門の滝(第一、第二、第三?)

向岸にあるのは暗門川のトレッキング路

【若い人が育つ津軽三味線】

最近の旅行では現地の音楽や踊りに接したい思いがあり、今回も「津軽三味線」を聴くチャンスを得ました。

それも、食事のあとに、その食事をした囲炉ばたのすぐ近くでの演奏でした。18 時すぎから魚の煮物や天然ホヤの刺身が入った郷土料理とお酒を堪能し、演奏の前に隣り合わせのご夫婦(茨城県東海村)と歓談ができ、お勧めスポットの情報交換ができました。

演奏はオリジナル曲など 5 曲。大きな音で迫力のある演奏。そして、若い人 5 名での演奏で会場は圧倒されました。30 畳間の玄関の上がったところで演奏なのです。それも、小学生、高校生、20 代、30 代、40 代とバチさばきも元気そのもの。もともと津軽三味線のイメージは高橋竹山氏のような年輩の方のものと思いきや、あまりにも若い人なので驚きでした。着実で伝統が根付き若い人に継承されて

いる感じを受けました。もともと、津軽三味線は

「正調」がなく、演じ手がオリジナルのある
ものを作っていくことに基本があるらしいのです。

【日　程】

8 月 1 日(月) ～3 日(水)　　2 泊 3 日　青森県

【行　程】

8 月 1 日(月) 旅先への移動と三内丸山遺跡めぐり

自宅　6:30--東京駅 8:28---12:33 新青森

車中昼食、三内丸山遺跡めぐり（13:00～15:00）

田んぼアート見学(田舎館村 16:00～16:20)

弘前市向け　新青森駅発 16:41　-----17:16 弘前駅着

ホテル 17:30（ホテル内で夕食)--弘前ねぷた祭り鑑賞　19:00～22:00 有料席

弘前パークホテル　〒036-8182 青森県弘前市土手町 126　TEL:0172-31-0089

2 日(火) 白神山地めぐり（現地ツアー　弘南バス　朝食ホテル内　　弘前駅前　9:15 発--アクアグリーン 10:45 着　暗門滝歩道 3 時間コース（昼食）アクアグリーン 14:20 発　弘前駅前 15:50　16:00　夕方　津軽三味線ライブ　食事　18:00～20:00 弘前ねぷた祭り鑑賞 20:00～21:30

「杏(あんず)」 弘前市親方町 44-1　二幸ビル 1F　0172-32-6684　郷土料理

3 日(水) 弘前市内めぐりと帰宅移動

（朝食　ホテル内）ホテル発　　8:00　　弘前城、藤田記念庭園、市立観光館、禅林寺他

（昼食は、フランス食堂　シェ・モア）

弘前駅発　12:58　---　13:34 新青森駅 13:42---17:36 東京駅--十日市場駅着

以上